

上社御柱祭

・山出し／4月2日(土)・3日(日)・4日(月)
 ・里曳き／5月3日(火)・4日(水)・5日(木)
 ・宝殿遷座祭／6月15日(水)

諏訪大社上社は、諏訪市中洲の「本宮」と茅野市宮川の「前宮」とふたつの宮からなります。御柱祭当年の2月、各地区の氏子代表によって8本の曳行分担を抽選で決定。それから柱の伐採が行われ、曳行時に角のような「めどこ」をつけるのが特徴です。



約20kmにおよぶ御柱街道は、山出しの綱置き場から始まります。特徴的なめどこが民家の軒先に触れそうなほど近づく難所を越えて、斜度27度の木落し坂へ。より大きなめどこにつけかえて、御柱は空から舞い降りるように急坂を下り落ちます。それから、雪解けて冷たい宮川の川越しへ。息を呑むクライマックスが続きます。

山出し【木落し・川越し】

里曳き【建御柱】

川越しを終えてから1ヶ月後。里曳きでは、騎馬行列や長持ち、花笠踊り、龍神の舞などが繰り出して、華やかに御柱行列を盛り上げます。そして本宮と前宮に各4本ずつ、曳きつけられた御柱は、めどこを外し、柱の先端を三角錐状に切り落とす「冠落し」を行って、各神社の境内に建てられ、御神木としての威儀を正します。



下社御柱祭

・山出し／4月8日(金)・9日(土)・10日(日)
 ・宝殿遷座祭／5月13日(金)
 ・里曳き／5月14日(土)・15日(日)・16日(月)

諏訪大社下社は、下諏訪町にある「春宮」と「秋宮」、ふたつの宮からなります。8本の御柱は、その伐採および曳行担当の地区が予め決められています。伐採そのものは祭りの1年前に行われ、本番まで木を乾燥させます。剥き出し丸太の豪壮な迫力が特徴です。



山腹の棚木場で1年間眠っていた御柱が、天をつくような木遣りの声で眼を覚まします。そして東俣川の渓谷沿いに曳行され、集落を抜けると、最大斜度35度の木落し坂へ。その引き綱を斧で切られた御柱は、一気に轟音を響かせ、坂を突き進みます。横転の危険と背中合わせに、必死の形相で御柱に乗り続ける男たち。最大の見せ場です。

山出し【木落し】

里曳き【建御柱】

新緑がまぶしい5月の中旬、下社の里曳きが行われます。御柱祭に華を添える「神賑い」の長持行列、騎馬行列、花笠踊りなどが繰り広げられます。各地区の氏子たちの日頃の成果の見せどころです。そして各神社の境内に、建御柱。最終日に最後の秋宮四ノ御柱が建てられ、長い年月をかけた御柱祭はついに終幕を迎えます。

